

# 植 物 防 疫 情 報 第 3 号

平成 21 年 6 月 22 日

岡山県植物防疫協会

岡山県病害虫防除所

## トマト黄化葉巻病の発生に注意し、 防除対策を徹底しましょう

トマト黄化葉巻病（平成 17 年 7 月 5 日付病害虫発生予察特殊報参照）は、岡山県内では平成 17 年に初発生が確認されましたが、その後は確認されていませんでした。ところが、昨年（平成 20 年）から県南部を中心に広範囲に発生が確認されています。

今後さらに発生地域の拡大が懸念されますので、発生地域はもとより未発生地域においても下記の防除対策を参考に、本病の蔓延防止対策を徹底してください。

### 1. 防除対策

- (1) 生長点付近に黄化や縮葉などがみられる本病の発症株（写真 1）は、見つけ次第抜き取ってビニール袋に密封し枯死させてから処分する。
- (2) 育苗圃場や栽培施設の開口部に防虫ネット（0.4mm以下の目合いが望ましい）を展張し、タバココナジラミ成虫の侵入を防ぐ<sup>1)</sup>。
- (3) 黄色粘着トラップなどの物理的防除を実施する。紫外線カットフィルムを併用すると効果が高い。
- (4) 育苗期～生育初期のタバココナジラミの防除を特に徹底する<sup>2)</sup>。
- (5) 野良生えトマトや圃場周辺の雑草（ノゲシなど）はタバココナジラミの増殖源となるため、適切に除去する。
- (6) 冬～春の施設栽培トマト栽培終了時に、タバココナジラミ成虫の施設外への分散を防止し、施設内のコナジラミ類を死滅させるため、本病発生の有無に関わらず、施設の蒸し込み処理を行う。その際、防虫ネットを展張したまま施設を密閉し、誘引したままの状態です株元の切断もしくは抜根を行い、トマトの株がカラカラになるまで蒸し込む。
- (7) 耐病性品種では、発病が抑制されるが TYLCV には感染する。このため、病原ウイルスの増殖源、伝染源となる恐れがあるので、従来品種と同様にタバココナジラミの総合的な防除を行う。
- (8) 農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、人畜・水産動物への危害防止に努め、周辺農作物への飛散防止対策をとる。最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/>）で確認できる。

1) 病原ウイルスのトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) はタバココナジラミ (写真2) によってのみ媒介される。タバココナジラミは、4月下旬以降の気温の高い時期には野外で増殖するが、露地で越冬できないため、冬期は施設内だけに生息している。高温期には細かな目合いのネットを使用することで、施設内の温度が上昇しやすくなるので、温度低下対策を行う。

2) 育苗期および定植時の粒剤処理は防除効果が高い。タバココナジラミには、薬剤感受性などが異なるバイオタイプがあり、国内ではバイオタイプB、バイオタイプQ及び在来系統の3系統が確認されている。タバココナジラミ・バイオタイプQは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同じ系統の薬剤使用を連用しない。抵抗性の発達したタバココナジラミ・バイオタイプQの場合、バイオタイプBと比べて有効な薬剤が少ない。



葉の黄化、小型化と葉巻症  
写真1 トマト黄化葉巻病の症状



葉の黄化、縮葉症状



成虫 (体長約 0.8mm)



蛹 (約 0.8mm)

写真2 タバココナジラミ

(上から見ると細長く、ハネの隙間から黄色い胴体が見える)